

知事との県民対話集会（松川村）概要

- ・開催日時 令和5年5月15日（月） 午後4時30分から午後6時まで
- ・会場 松川村多目的交流センター「すずの音ホール」
- ・参加者 県民31名、平林松川村長、阿部知事、早川北アルプス地域振興局長
- ・テーマ 決めた！！ここに住みたい！住み続けたい！—そんな松川村を目指して—

・主な発言（要旨）

【参加者】

・シクラメンを栽培している。冬場のハウス暖房について、ヒートポンプの活用などで努力しているが、化石燃料を使用せざるを得ない状況である。森林資源の活用をもっと進めるべき。県内各地に家庭用や産業用のペレット工場を整備することなどを検討できないか。また、県の試験研究機関が協力し、よりよいペレットボイラーの開発にも取り組んでほしい。

【知事】

・森林資源の活用については、流通システムとセットで仕組みを考えないといけない。物流、販売面で企業の協力を得ながら取り組んでいきたい。ペレットやペレットボイラーについては、「くらしふと信州」でも考えていくようにしたい。

【参加者】

・娘がJR大糸線で松本まで通学しているが、安曇野市で折り返してしまう電車が多い。親が迎えに行くとなると、時間も労力もかかる。安曇野市で折り返す電車を少なくしてほしい。

【知事】

・高校生と話をすると、交通に対する課題が多く聞かれる。県内交通の最適化は最重要かつ喫緊の課題である。この4月から交通政策局を設置した。交通システムのあり方を原点から考え直す必要がある。

【参加者】

・献血参加者や骨髄バンク、臓器提供の登録者数を増やしたいという思いで活動をしている。特に若い人にどう周知していくかが課題であり、よい方策があれば教えてほしい。

【知事】

・活動していることの意義やご協力いただいた結果等を周知するなど、丁寧なコミュニケーションが重要であると思う。

【参加者】

・重症心身障がい児、医療的ケア児がもっと多くの人と接したり出掛けたりできるようになるとよい。自宅での介護で親は働きにも出られず、心身も疲弊している状況にある。レスパイトケアなど、親をサポートする体制の充実を望む。

【知事】

・教育と医療のどちらか一方だけでは対応できず、両方で考えないとよい解決方法は出てこない。教育側にも様々な問題があり、また、限られた医療資源を有効に役立てられる体制をつくれるかも大きな課題である。個々のニーズを視野に入れて考えていかなければならない。こども病院でも現状や課題を確認して考えていきたい。

【参加者】

・全県で偏りなく文化芸術を享受することができるよう、昨年度このホールで開催された「おでかけまつぶん広場」のような取組をどんどん進めてほしい。

【知事】

・心豊かな社会をつくっていくためには文化の力が重要であり、文化政策はもっと充実した方がよいと思っている。地域の文化活動を応援する中間支援組織として「信州アーツカウンスル」をつくって動き始めており、充実させていきたい。地域が大切にしてきた文化を住民の皆さんにも大切にしてほしい。

【参加者】

・プロジェクトチームをつくって県の組織風土改革を進めているとのことだが、どのような組織を目指しているのか。県職員に浸透していないのではないか。具体的な話は割愛するが、不適切な対応をした職員がいる。

【知事】

・本当の意味で県民の役に立つ組織にするため、その前提として、職員がモチベーションを高く持ち、主体性を持って行動できるよう組織風土を変えていく。全庁的な組織風土改革と個別の話とは次元が違うと思われるため、具体的な御不満があるようであれば県民ホットライン等で対応していく。

【参加者】

・PTAの制度が時代に合っていない。変えていくモデルケースがあれば県が発信してほしい。内部からは変えづらい風土がある。

【知事】

・好事例を共有するのはよいことだと思う。消防団、PTA、町内会など自治的に運営されている組織については、（県ではなく）それぞれの団体ごとに意見を出し合い、多様性を認め、みんなの力で伸ばしていただけるとありがたい。